

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	伊丹市新庁舎整備工事	階数	地上6階地下1階
建設地	兵庫県伊丹市千僧1丁目1番他	構造	S造
用途地域	第二種住居地域・準住居地域、指定なし(法22条地域)	平均居住人員	1,445 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,210 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2020年8月18日
敷地面積	19,953 m ²	作成者	調・田口・柳田・安倍
建築面積	4,417 m ²	確認日	2020年8月18日
延床面積	21,944 m ²	確認者	大和久、吉村



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 4.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.5

LR のスコア = 4.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
総合 ・「市民の安全・安心な暮らしを支え夢と魅力があふれる庁舎」をコンセプトとし、繊細な木調の日射遮蔽フィンが特徴的な外観デザインである。構造としては免震構造を採用、設備に関しては災害が発生した際にも業務可能な機器類を採用した計画となっており、災害復旧復興拠点として機能する。既存庁舎の一部を再利用することでライフサイクルコストを軽減するサステイナブルな庁舎となっている。		その他
Q1 室内環境 ・両端コア、中廊下式プランの採用によりオープンかつ可変性のあるフロア空間とすることで組織変更などに柔軟で効率的な利用を可能とする。将来性を考慮し予備配管を設けると共に、更新しやすい内装計画とすることで維持、管理をし易いよう配慮した。	Q2 サービス性能 ・庁舎として防災拠点・災害復旧復興拠点の機能を維持するために免震構造を採用。非常用発電機や2回線受電、雨水貯留槽、非常用汚水槽、受水槽の2槽化によりライフラインが停止した場合でも災害対応等の業務維持が可能な計画としている。	Q3 室外環境(敷地内) ・市民広場に薄層緑化を備えた「環境ルーフ」を計画し、強い日差しや、雨を溜り、風が抜ける半屋外の公共空間を計画。軒天部分を一部木質化、床材をデッキ材とすることで内部と外部をつなげる計画としている。
LR1 エネルギー ・建物北西側に日射遮蔽フィンを採用、またLow-Eペアガラスを採用することで直射日光を軽減し空調負荷を軽減し、BEMSの採用によりエネルギー使用量や省エネルギー効果を視覚化することでライフサイクルコストを低減する。	LR2 資源・マテリアル ・太陽光パネルを屋上に設置し、日中の照明エネルギーを負担する計画である。雨水に関しては環境ルーフの薄層緑化の灌水、また便所洗浄水として再利用する計画とし、便器に関しては節水型を採用することで水資源の有効活用を図る。	LR3 敷地外環境 ・周囲の緑化環境に配慮した植栽計画とし、庁舎を新しい公園と位置づけ緑化に配慮した歩行者空間を創出する。屋上設備機器に関しては目隠しを設けることで、騒音を軽減すると共に景観的な観点でも配慮した計画とする。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される